

東洋陶磁学会 第四十八回大会のお知らせ

初秋の候、会員の皆様には益々ご清祥の事と存じます。

この度、二〇二一年度の大会を左記のとおりオンラインで開催致します。奮ってご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

新型コロナウイルス感染症流行の影響で昨年の大会が中止となり、また今年もオンラインでの開催のやむなきに至りました。ご不便をおかけいたしますことをご詫び申し上げます。

東洋陶磁学会

記

日時 二〇二一年十二月六日(月)より発表動画を配信

十二月十一日(土) 発表者による討論**

(*、** 詳細は別紙「東洋陶磁学会第48回大会申し込み方法についてのご案内」を御覧ください。)

*テーマ 「陶磁史研究の今とこれから——二〇二〇年からの展望」

*趣旨 昨年以來、全世界は新型コロナウイルスの流行によって危機的状況に追い込まれることとなりました。陶磁器をめぐる研究や教育、創作の世界もまた困難な状況にあります。その中でも将来に向けた様々な努力が続けられています。今回の大会では、各地の研究者、学芸員、教育者、創作者などがそれぞれの現状と展望を語り、今後の陶磁史研究を切り開くための問題意識を共有します。

*発表動画演題・発表者(日本語以外の発表はすべて字幕付き)

十二月六日(月) 午前二〇時より限定動画配信(YouTube)

〈セッション1:窯跡調査の今とこれから〉

・「景德鎮窯址の考古調査と保護利用」

——明清御窯廠遺址の事例をもとに

江建新(景德鎮陶瓷考古研究所)

・「広州官窯遺跡の調査・保存・活用」張起熏(京畿陶磁博物館)

・「窯跡の可能性——研究、継承、活用に向けて——」

水本和美(東京藝術大学)

船井向洋(伊万里市教育委員会)

・トピック 青磁窯をめぐる新発見①

「慈溪上林湖越窯考古の新展開」

謝西營(浙江省文物考古研究所)

・トピック 青磁窯をめぐる新発見②

「康津沙堂里高麗青瓷窯場の新発見」

韓盛旭(民族文化遺産研究院)

〈セッション2:美術館・博物館の今とこれから〉

・「博物館研究と展覧会企画——皇帝の多宝格」特展を例として

余佩瑾(國立故宮博物院)

・「スペイン・バルセロナ自治大学における日本・韓国陶磁の

オンライン展示について」尙承妍(バルセロナ自治大学)

・東京国立博物館の新たな試み

『あつまれどうぶつ森』を用いたCoIBaseの

普及活動について」川合加容子(文化財活用センター)

『8Kで文化財 ふれるまわせる名茶碗』の

企画経緯と可能性について」三笠景子(東京国立博物館)

〈セッション3:陶芸は未来——作家として、教育者として〉

・「コロナ下における東京藝術大学の陶芸教育」

三上亮(東京藝術大学)

・「二〇二二年 韓国陶磁器の産業と大学教育」

金大容(ソウル科学技術大学)

・「伝統工芸と工芸伝統」

劉潤福(清華大学)

*討論集会

十二月十一日(土) 午前二〇時開会(Zoomウェビナー)

・東洋陶磁学会常任委員長挨拶

伊藤 嘉章

・ラウンドテーブル1:座長 渡辺芳郎(鹿児島大学)

セッション1 参加者との質疑応答・討論

・ラウンドテーブル2:座長 小林仁(大阪市立東洋陶磁美術館)

セッション2 参加者との質疑応答・討論

・ラウンドテーブル3:座長 花里麻理(茨城県陶芸美術館)

セッション3 参加者との質疑応答・討論

・総括

・懇親会 オンライン上での懇親会を、午後五時三〇分頃より予定

*費用

・大会参加費(参加者全員)

二、〇〇〇円

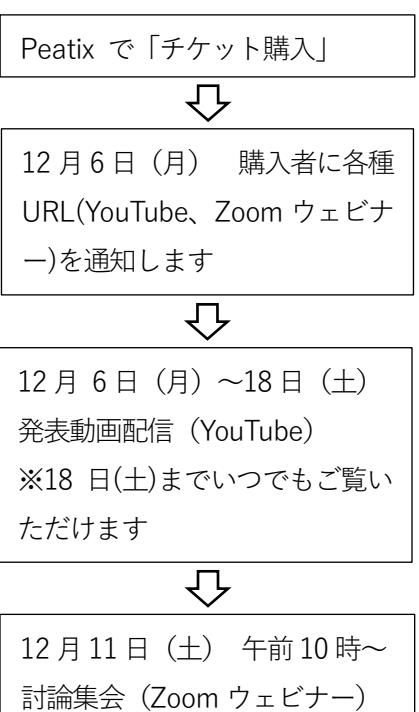
【注意】

・参加申込は十二月六日迄に、別紙「東洋陶磁学会第48回大会申し込み方法についてのご案内」に従ってお済ませください。

・参加申込は「チケット購入」の形で参加費納入が同時に行われ、完了された方に、十二月六日(月)までに各種URL(YouTube、Zoom ウェビナー)の情報をメールでお知らせいたします。

・発表の演題および順序が変更される場合がございます。「発表要旨」を大会前にホームページに掲載いたします。

【第48回大会の流れ(模式図)】



東洋陶磁学会

一〇二一〇〇七四 東京都千代田区九段南 一五六一

りそな九段ビル五階 KSフロア

電話 〇三-三三三三九-一二七七

E-Mail: toyotoji@nifty.com

http://toyotoji.com/